8月
2017年
143号

地域共創・未来共創の大学へ

広報 沖縄大學

発行
沖縄大学経営企画室
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)2910
http://www.okinawa-u.ac.jp



4月にオープンした沖縄大学アネックス共創館

Contents

02 国場555PROJECT（辺土名律）
03 新入生歓迎スポーツ大会／第58回沖大祭PR
04 サッカー部紹介／リレーエッセイ（志良堂かなさ）
05 研究のひろば（喜屋武政勝）／わがゼミナール（豊川明佳）
06 海外留学紀行（チャン・ティエン・タン／神谷成実）
07 子どもの貧困問題解決に向けて
08 沖縄大学アネックス共創館／創立60周年記念事業寄附金報告
09 2017年度入学式
10 2017年度冠奨学金授与式／後援会・同窓会総会報告
11 2016年度決算・2017年度予算
12 2018年度入試案内

学長コラム⑨

沖大が一番

仲地　博

全国に大学・短大がいくつあるかご存知だろうか。国立、公立、私立併せて実に一千を超える。その中で、沖縄大学が「一番」あるいは「唯一」、「最初」がいくつかある。

まず、沖大が日本で「一番」南に位置する大学である。また、県都那覇市にある「唯一」の文系総合大学である。ここから、沖縄で学ぶ、沖大で学ぶことの意義が見えてくる。

琉球王国の一時代は、万国津梁（諸国に船で橋を架ける）の活躍をした。戦前は、南洋諸島、南米諸国に多くの移民を送りだした。戦後は、日本独立後もアメリカ統治下に置かれた。そう、きわめて国際的地域なのだ。目を凝らせば、沖大からはアジアが見える、日本が見える。

また、沖縄は、日本で「唯一」亜熱帯地域に所在する島嶼県だ。それぞれの島が、豊かな自然、独自の文化を持つ。若い感性は大いに刺激され、想像の翼が広がり、それは創造へとつながる。

沖大は、全国で「最初」に単位互換を制度化した。単位互換はいまや珍しくないが、学生をまるごと相手大学に送る派遣制度を実施する大学は今でも少ない。沖大学生は、北海道でも東京でも京都でも1年間学ぶことができる。沖大自慢の国内留学制度で、40年前から実施している。ところで、中央教育審議会は、学生の流動性の向上を検討している。私立大学の連合会も、学生の交流を「渡り鳥」制度として提案している。沖大の「最初」の取り組みに、時代がようやく追いついてきたのだ。

そしてもう一つ付け加えよう。沖大は、学生を「一番」大切にする大学だ。学生数2千名で年間1億3千万円の返還不要の奨学金を給付する沖縄大学は、まちがいなく全国「トップ」クラスであろう。

等身大の姿で革命を

国際コミュニケーション学科2年次
辺土名 律
（コザ高校卒）

コクバ 国場555 PROJECT GO! GO! GO!

国場５５５プロジェクトは、沖縄大学の様々な行事の企画、運営を行う団体である。自ら活動し、沖縄大学を変えたい、良くしたいという想いから動き、仲間と共に日々、沖縄大学のことを考えている。オープンキャンパスの内容も、国場５５５プロジェクト内のメンバーで企画している。オープンキャンパスの実行委員長を務めるのが、辺土名律、つまり私である。実際にオープンキャンパスで様々な企画を実行する中で、沖縄大学のオープンキャンパスは、県内の他の大学よりも、実に高校生に寄り添った内容になっていると私は考えている。



前列中央が辺土名君

ここからは、実際に行われている沖縄大学のオープンキャンパスの内容と、なぜそれを企画したのかについて話したい。



まず、今年から導入した大きなものが2つある。1つ目は、「沖大なうキャンペーン」だ。これは、ＳＮＳでハッシュタグをつけ、「#沖大なう」とオープンキャンパスに来てくれた高校生に配信してもらっている。もちろん、普段から学生にも使ってもらっている。Ｉｎｓｔａｇｒａｍやｆａｃｅｂｏｏｋではあまり広がってはいないが、Ｔｗｉｔｔｅｒで検索すると多くの投稿が見られる。なぜこれをするのか。それは、学生と高校生がＳＮＳを通して繋がり、沖縄大学をより高校生に身近な大学として認識して欲しかったからだ。結果、オープンキャンパス後にＴｗｉｔｔｅｒで連絡をくれる人、入試について質問してくる人が増えた。教員や職員に聞くよりも、現役の学生の方が質問しやすかったり、よりリアルな沖縄大学を知ることができる。ぜひ、高校生にもっと活用してもらいたい。

２つ目は、「在学生夢トーク」だ。これは、実際に沖縄大学で活躍する学生が、自身のこれからのビジョンや、沖縄大学で何をしているのか、学外で何をしているのかなど、高校生に向け、20分程度で話してもらっている。第一回は、国場５５５プロジェクトのリーダーである照屋一輝さんが、国場５５５プロジェクトによる沖縄大学の改革を夢見る姿を話した。第二回は、私が将来の夢や今までの自分自身について語り、どの回も高校生はもちろん、スタッフとして参加した学生にも影響を与えた。人前で自身のことを話すことは、非常に緊張する。人生でこうした機会はあまりない。故に、この貴重な体験ができるのは在学生にとっても、非常に良い機会だ。この企画は、在学生のためのものでもある。実際、私は「夢トーク」が終わって帰るとき、涙を流す高校生に会った。なぜかと聞くと、「私の話に感動した」と言うのだ。それも１人ではなく、他にも涙する高校生がいた。自身の話が人の心を揺さぶったと思うと、私も感動し泣きそうになったことが今でも頭に浮かぶ。



沖縄大学を大きく見せるのではなく、ここで努力する学生を見せる。より、高校生と在学生のためのオープンキャンパスを。ここから次世代の沖大生に革命が起こることを、私は願っている。

新入生歓迎スポーツ大会



新入生歓迎スポーツ大会 実行委員長
法経学科３年次
眞壁　孝亨
（糸満高校卒）

去る5月15日に、那覇市民体育館にて新入生歓迎スポーツ大会を開催し、７００名を超える沖大生がバレーボールで汗を流しました。

私は、実行委員メンバーと共に大会を作りあげていく上で、前回の反省点である、「タイムスケジュールの遅れ」を改善するために、仲間と意見を出し合いました。各班のシフトを決め、各自の仕事を明確にしたことで、委員各自が責任を持って行動するようになりました。その結果、タイムロスが減り、分刻みのスケジュール通りの進行ができました。

また、例年より多い参加人数だったため、今回は競技を１種目に絞ることで、１チームあたりの試合数が増え、チームごとでのコミュニケーションを取る機会が増えたと思います。出場チームごとに特色があり、敗れたチームも、同じ学科や友達のチームを応援することで繋がりができ、一層の盛り上がりを見せました。

しかし、反省点もあります。決勝戦試合前の雰囲気を盛り上げ、一体感を高揚させるような演出や、表彰式での音響を工夫させることで、より一層、大会が盛り上がり、イベントとしてさらに高みにのぼることが出来たのではないかと思います。次回は、この反省を活かすことで、より良い大会にしたいです。

大会の準備から実施するまでの間に、仲間と同じ目標に向かって協力することの難しさを感じたことがありました。しかし、実行委員一人一人が笑顔で運営することや、常に声を掛け合いコミュニケーションを密にすることで、新入生歓迎スポーツ大会を成功させることができ、仲間と共に目標を達成することへのやりがいを感じることができました。改めて学科・学年の壁を越え、教員・職員の方々と一体となることができるイベントだと思いました。



今後も、学生だけでなく、教員・職員を巻き込んだイベントを企画、運営していきたいと考えています。

「チーム沖大」として、みんなで沖縄大学を盛り上げていきましょう。

第58回 沖大祭 PR



第58回沖大祭実行委員長
福祉文化学科２年次
比嘉　咲綾
（南風原高校卒）

開催日
2017年
11/4(土)・5(日)

今年の沖大祭は、「歓言愉色（かんげんゆしょく）～Let's enjoy 沖大祭～」をテーマに掲げました。

「歓言」は楽しく話をする、談笑、「愉色」は楽しげな表情、笑顔という意味を持っています。テーマに沿って楽しく、沖大らしい色を出せるような学祭を作り上げていきたいと思います。

沖大祭の最大の見所は、ステージでの様々な企画です。昨年度は、借り人競争や物当てクイズを行い、○○の主張のコーナーでは、日頃は言えないことも言えたりして、とても盛り上がりました。今年度も、前回以上に盛り上がるような催し物を企画しています。特に、沖縄大学の基本理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」、「地域共創・未来共創」を重視し、地域と学生の交流をさらに深めていきたいと思います。



沖大祭実行委員として運営を担当する国場５５５プロジェクトには、新入生もたくさん加入し、総勢約80名のメンバーで沖大祭を運営します。今年度の実行委員会のコンセプトを「伝統」と掲げ、これまでの実行委員会が作り上げてきたものを引き継ぎ、更に発展させた沖大祭にしたいと思います。

私自身、沖大祭を経験するのは今年で二回目なので、前回の反省や経験を活かし、より良いものを、沖大祭実行委員のメンバーと力を合わせて作れたらと思っています。昨年度は施設班の班長を務めましたが、沖縄大学の各建物や広場を活かせるような出店の配置ができなかったので、今年度はそういった部分にも力を入れたいと思います。



私は、那覇市長田出身ということもあり、小さい頃から近所の沖縄大学を身近に過ごしてきました。この沖縄大学という場は、小学生から高齢者まで、様々な世代の人たちが集う場所だと思います。親しんだ地域と開かれた大学の特色を活かし、老若男女、訪れる全ての方々に沖大祭を楽しんでほしいと思います。皆さんのご来場をお待ちしています。

九州大学サッカーリーグ（2部）昇格を目指して

サッカー部 主将 伊敷 晃帆（長崎総合科学大学附属高校卒）
福祉文化学科 健康スポーツ福祉専攻 3年次



現在、サッカー部は部員28名・マネージャー2名の計30名が所属し、月・水・金曜日は、4月からオープンした「沖縄大学アネックス共創館」の小グラウンドで練習しており、土・日は西原グラウンドで、仲間と切磋琢磨しながら汗を流しています。

私たちは、九州大学サッカートーナメント大会（本戦）の出場と、12月に開催される九州各県大学サッカーリーグ決勝大会の優勝（九州大学サッカーリーグ2部昇格）を目指して活動しています。昨年4月に開催された九州トーナメント（予選）では、琉球大学にPK戦の末敗れて、本戦へ出場出来ず悔しい思いをしましたが、11月の九州リーグ決勝大会（沖縄代表決定戦）では、琉球大学に3-2で競り勝ち、リベンジを果たすことが出来ました。しかし、12月に長崎県で開催された九州大会では、1回戦で長崎県立大学に1-2で敗れ、2年連続1回戦敗退という結果となりました。

私は、チーム唯一のゴールキーパーとして活動していたのですが、2部リーグ昇格をかけた九州大会の前に、大怪我をしてしまい、チーム全体に迷惑をかけてしまいました。今年は、人生初のチームキャプテンを任され、わからないことばかりですが、チームメイトに意見をもらいながら、昨年・一昨年は何が足りなかったのかを自分なりに考え、試行錯誤しながら頑張っています。今年の九州トーナメント大会（予選）では、1勝1敗のグループ2位に終わり、九州大会出場は果たせなかったのですが、12月9日（土）・10日（日）



リレーエッセイ 第10回

沖大の良さって何ですか？

入試広報室　志良堂かなさ

学生のみなさん、大学職員ってどういうイメージですか？

私が学生の頃の「大学職員」のイメージは、「大学の事務をする人」でした。しかし実際は、事務作業だけではありません。私が所属する入試広報室という部署では、沖大に入りたい！と思う受験生を一人でも増やすために、県内外の様々な地域・高校で説明会を行う「営業」の仕事をします。オープンキャンパスを企画運営する「イベンター」の仕事をします。また、大学案内やHP、SNSを通して沖大の魅力を発信する「広報」の仕事をします。

なかでも一番やりがいを感じるのは、学生スタッフと協力して企画運営するオープンキャンパスです。年3回、新企画を盛り込んで、受験生が飽きないようなイベント作りをしています。

今年は、学生の提案で、「#沖大なう」というハッシュタグを使って、オープンキャンパスの楽しそうな様子をSNSでつぶやこう！という新企画を行いました。SNS上に投稿されることで、そのフォロワーにも楽しそうな写真が拡散され、実際にイベントに来られなかった人にも沖大へ関心を持ってもらおうという作戦です（Twitterをやっている方はぜひ「#沖大なう」で検索してみて下さい！）。また、「沖大生夢トーク」という新企画では、現役沖大生が入学後の経験や考え方の変化についてプレゼンすることで、受験生に大学生になった自分の姿を想像してもらうという目的がありました。

このように、沖大の魅力を伝えるにはどうすればいいかを学生と一緒に考え、形にした企画が、受験生からいいリアクションを得られたときに、一番のやりがいを感じます。

よく相談会などで、受験生から「沖大の良さってなんですか？」と聞かれます。それは、学生と教職員の距離が近いことだと思います。思いついた企画を、学生だけでなく教職員のサポートを受けながら実現できるのは、小さな大学ならではです。昨年度からは、学生と教職員とで一緒に沖大を盛り上げていくための「国場555プロジェクト」もスタートし、アイデアを形にする環境が整いつつあります。沖大生のみなさん、やってみたいことは、ぜひ私たち職員に提案してみて下さい！実現するための方法を一緒に考えていきましょう。

次回は、教務課の金城慎介さんです！



写真右が志良堂さん

研究のひろば

「物語」この良きもの
―こどもたちに文学作品をどう教えていくか



こども文化学科教員
（国語教育、日本語学）
喜屋武 政勝

小学生がかな文字や漢字を習得し、教室で「物語」の世界に向かうとき、教師はどのような教材を準備し、どのような方法を用いて、こどもたちの「物語」体験を支援してあげたらいいでしょうか？ 私の研究テーマのひとつが、小中学校における文学作品の教材論と教授法です。児童生徒向けの文学作品を読み込んで、その表現と主題を丁寧に分析していく仕事です。そして、それぞれの作品の特性に合わせて、こどもたちが想像し思考してゆく具体的な教え方をさぐってゆくのです。この仕事は、ひとりでこつこつと積み上げてゆくのも楽しいのですが、学生のみなさんと一緒に、現場教師の方々と一緒に、集団的に行うことで、さらに楽しく、その成果も大きなものになってきます。

小学校1年生の教科書には、ロシアの民話を再話した「おおきなかぶ」という作品が載っています。おじいさんの愛情をたっぷりうけた「あまい げんきのよい とてつもなく おおきいかぶ」を、おじいさん、おばあさん、まご、いぬ、ねこ、そしてねずみが力をあわせて「やっと」ぬくお話です。「うんとこしょ どっこいしょ」のかけ声を覚えておられる方も多いことでしょう。そんな、おなじみのお話も、作品のことばに注意すると、いろいろなことが発見できるのです。『あまい あまい かぶに なれ。おおきな おおきな かぶに なれ』といった作品の表現を「あまい かぶに なると いいな。おおきな かぶに なると いいな」といった言い方と比べると、おじいさんのかぶに対する強い期待や希望を、こどもたちは追体験することができるのです。おじいさんは、毎日、声に出してかぶを育てていたことも想像できます。「何週間もおじいさんは水をかけたり／太陽あてたり／足音を聞かせたり／おはなししたり（して育てたよ）」（ある授業にて、こどもの発言）。

ややもすると、大人ばかりでなくこどもも速読み・飛ばし読みで「物語」の筋だけをせっかちに追い求めがちかもしれません。こどもたちには、豊かな「物語」の世界をじっくりと味わってほしい、ことば（表現）に注意しながら情緒的な体験を積み重ねていってほしい、そう願います。また、「物語」を最後まで読み味わったのち、「力をあわせることの喜び」といった価値ある主題も理解してほしいと思うのです。現場教師のみなさんのお力を借りながら、そのような、国語の授業づくりを研究しております。

わがゼミナール

マーケティングで地域を描く



法経学科教員（経営学）
豊川 明佳

豊川ゼミの活動目標は、①マーケティングを理解するための基本的な知識を身につけること、②マーケティング的な思考力、独創力を身につけること、③マーケティングに関する問題解決能力と実践的な応用力を身につけることです。そのためには、世の中で起こっている様々なマーケティング事象から具体的テーマを発見し、そのテーマに関する問題の設定、仮説の構築と検証、問題の解明と考察といった活動を行います。

昨年度は、沖縄で増え続ける外国人観光客の中でも、特に消費金額の高い「中国人観光客の消費者行動～中国人観光客はこれから何を沖縄で買いたいのか～」を分析するため、約800名にアンケートをとりました。中国語で話しかけ街頭で質問することは大変緊張したようですが、そのリサーチ結果を法経学部ゼミナール大会で発表し、グランプリをいただきました。

ゼミナール大会で発表することは、豊川ゼミでは必須条件になっていますが、学生達が頑張ってくれるおかげで、過去3年間連続でグランプリを獲得できていることは、私の誇りでもあります。今年は「外国人から見た沖縄の真の魅力」が何なのかを調べ、地域の価値としてのブランド力を見直し、マーケティング政策立案を目標にしています。

またそれらと平行して、地域経済・産業界との連携プロジェクトなどの多様な実践活動も行なっています。株式会社ナンポーさんのご協力のもと、外国人が求めている土産菓子を調べ、その成果を本社で発表したり、丸紅那覇支店さんのご好意にて、グループ企業約60社が集まる会に学生を呼んでいただき、「しまんちゅぬ わかむん（沖縄の若手）からのメッセージ～沖縄を担う大学生達の生き方～」というパネルディスカッションをさせていただきました。

そして、やはり最近の一番大きなゼミの活動は、大城淳先生のゼミと合同で作成した「沖縄の業界地図2017」です。2017年6月に発売すると同時に、すぐに初版4000部が売り切れ、第2版を印刷しました。学生と共に地域に必要とされる商品を作り、コンセプト設計や流通を考え、消費者の元に届けるという一連のマーケティング・プロセスを行えたことは、本当に嬉しく思います。

豊川ゼミは、これからも理論と実践の双方からマーケティング力を身につけていけるように、学生と共に努力していきたいと思っています。



パネルディスカッションでの様子（丸紅那覇支店様提供）

沖縄で感じた温かさ

チャン・ティエン・タン
国際コミュニケーション学科／
ホーチミン市師範大学日本語学科
４年次


浴衣姿のタンさん（写真中央）

私は今、交換留学生として1年間の予定で沖縄に住んでいます。私はベトナムに沢山の友達がいます。だけど、私が通っているホーチミン市師範大学と沖縄大学では、交換留学した先輩がいません。なので、私は何のアドバイスも得られず沖縄大学に留学に来ました。とても心配しました。でも、沖縄に着いたら、沖縄大学のスタッフと学生が迎えに来て、新しい生活のために、全部準備してくれたので、とても嬉しくて温かい気持ちになりました。4月には、新入生と一緒に1泊2日で渡嘉敷島へ行って、オリエンテーションがありました。海がきれいだったし、友達も沢山できました。

沖縄に来て最初の頃に、困ったことが起こったけれど、皆が沢山手伝ってくれたので、全部解決できました。留学が始まって2週間後に自分の誕生日が来ました。はじめて誕生日に家族と友達がそばにいませんでした。さびしいな～と思ったけれど、沖縄の友達が誕生日を一緒にお祝いしてくれたので、嬉しい気持ちになりました。それから、私はバイトを探していたけれど、なかなか見つかりませんでした。ある日、私が買い物に行った時、一人のオーナーと出会いました。その人の娘さんがマクドナルドでバイトをしないかと言ってくれて、面接をして、今はマクドナルドでバイトをしています。オーナーは「私はタンさんの沖縄のお母さん、私の娘はタンさんの姉さんだと思って、困ったことや寂しいことがあったら、いつでも連絡していいのよ！」と言ってくれました。友達だけではなくて、沖縄の人は皆とても優しいと思います。

日本人はほとんど無宗教なので、教会とかが少ないと思います。でも、私が住んでいる那覇には教会があり、ベトナム人の司祭や留学生が多く、沢山手伝ってくれてすごくラッキーでした。

ところで、沖縄大学にはベトナム語の授業があります。ベトナム語は難しくて、珍しいので、学びたい人が少ないけれど、日本人がベトナム語を勉強する姿勢を見ると本当に感動します。

最近は、ハーリーや異文化サークルやビーチパーティーなど、大学の活動にも沢山参加できて楽しいです。また、沖縄の米軍基地に友達と一緒に入って、映画を見たり、アメリカの料理を食べたりしました。これからまだまだ多くの面白いことがあるはずです。沖縄で忘れられない思い出を作りたいので、もっと沢山楽しんでいきたいと思います。

新しい人たちと出会えて、これまでにないほどの貴重な時間を過ごしています。大自然にも恵まれていて、時々、友達とサーフィンや釣りをしたり、BBQをしたりして楽しんでいます。ただオーストラリアは物価が高いので、英語を使いながらアルバイトをしたり、ホームステイからシェアハウスに変え、自炊をしたり、移動手段もスクーターにしたりして工夫して生活しています。

ここに来て、私の英語が上達したかはわかりませんが、時々"Your English is good."と誉められた時は嬉しいです。しかし一番は、英語で友達とコミュニケーションがとれる時が嬉しいです。

私は留学ができて本当に満足しています。毎日、驚きと学びの連続です。

もし興味があるなら、後悔はしないと思うので、ぜひ皆さんにも留学してもらいたいです。

留学生活楽しんでます！

神谷 成実（向陽高校卒）
国際コミュニケーション学科３年次
／ボンド大学附属語学センターへ
留学中

私は、今年の四月から、オーストラリアのゴールドコーストで生活しています。元々は、働きながら留学できるワーキングホリデーをするつもりでいたのですが、休学する必要のない交換留学を選択しました。

オーストラリアを選んだ理由は「気候が合うから」だったので、今、自分がこんなにもオーストラリア生活を楽しんでいることに驚きです。

私はボンド大学に通っています。授業はEnglish Academic Purposesといって、英語でプレゼンテーションをしたり、文章を要約したり、毎週のように実力テストや課題があったり、少しハードな内容です。しかし、授業は一日二時間の2コマだけで、時間にも余裕があります。課外活動などが盛んなので、授業の後に、バレーやバドミントンをやったり、コミュニティーイベントに参加して、学部の学生とおしゃべりを楽しんだりして、とても充実しています。

オーストラリアは色々なことを学ぶ機会に恵まれており、市民図書館にあるＩＥＬＴＳ(International English Language Testing System)と英会話クラブ、朝食付セミナー、無料上映会、ミュージックライブ、コメディーショーパブ、教会主催の無料コミュニティーディナーとコーヒータイムなどがあります。毎日、


留学生活を満喫する神谷さん（写真右）

子どもの貧困問題解決に向けて
～私立大学研究ブランディング事業～



２０１６年度、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」が始まりました。これは、学長のリーダーシップの下、優先課題として全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学・私立短期大学を、重点的に支援するというものです。全国から１９８校が申請、その中から40校が選定されました。本学は、事業名を「沖縄型福祉社会の共創―ユイマールを社会的包摂へ―」とし、研究支援や実践支援を行いながら、子どもの貧困の解決に向けた多角的な地域支援の実現を目的として掲げ、選定されました。選定後は、すぐに学内へ研究の公募を行い、個人研究１人と共同研究３班が採択されました。

また、学内外に同事業を広く知って頂くために、２０１７年１月21日にキックオフシンポジウムを開催しました。そこでは、基調講演に佐賀のＮＰＯスチューデント・サポートフェイス代表理事の谷口仁史氏をお招きし、60名の参加がありました。質疑応答では、参加者からの活発な質問もあり、子どもの貧困問題に対して関心の高さがうかがえました。さらに、パネルデスカッションも行われ、(株)テラ・ウェブクリエイト社長の寺田克彦氏、那覇市福祉部保護管理課の崎枝智氏・具志光展氏、琉球大学法文学部教授の本村真氏らが、それぞれの立場から子どもの貧困問題への取り組みや、課題や問題提起などを行い、大変盛況なシンポジウムとなりました。





ブランディング事業は、要件として、学外からの評価を受ける事が求められています。本学でも那覇市・中小企業家同友会・他大学教授等に評価委員を委嘱し、２０１７年３月24日に外部評価会議を開催しました。会議では主に、ブランディング事業における２０１６年度の研究の取り組みを説明し、委員の方々からは、その研究内容に関しての質疑を受けました。最後にとりまとめた委員からの意見として、子どもの貧困は大きな問題であり、ブランディング事業を通し成果が出ることを期待したい、とのコメントを頂き２０１６年度の活動は終了しました。

２０１７年度の研究・研究班の公募では、個人研究２人と共同研究５班が採択されました。５月には研究予算額も決定し、各研究・研究班の活動が始まっています。

また、今年度は実践支援の取り組みとして、繁多川公民館や地域の自治会の方々の協力を得て、「放課後こくば子ども教室」を実施しています。これは、子どもを孤立させないようにと、沖縄大学アネックス共創館に歩いて通える範囲に住んでいる上間小学校と仲井間小学校の子どもたちを対象に、地域の大人や本学学生と、放課後の時間を一緒に楽しく過ごしてもらおうという企画です。週に一回、学校を終えた子どもたちは、集まった人たちと一緒にまず宿題などをやり、その後様々な遊びやスポーツ、調理などをして楽しく時間を過ごしてもらっています。

さらに現在、夏休みの小学生の過ごす場所として、本学学生から提案のあった企画が進行しています。これは支援の必要な世帯の小学生が集い、夏休みの宿題対策や調理体験、フットサル教室や沖大キャンパスツアーなど、小学生で協力して色々な事に取り組んでもらえるような内容を検討しています。



ブランディング事業は三か年事業で、現在折り返し点です。これまでの実績を踏まえて、さらに子どもの貧困の解決に向けた、研究支援・実践支援を企画し実施していく予定です。

沖縄大学アネックス共創館、供用開始。



「沖縄大学アネックス共創館」のオープニングセレモニーを4月12日に開催しました。

アネックス共創館2階には沖縄大学地域研究所が移設され、今後は、土曜教養講座をはじめ各種公開講座の拠点となります。また、アクティブ・ラーニングのスペースとして、学びの共同空間を整備し、地域の公民館等と協力して、子どもの学習支援や食堂機能にも挑戦していく準備をしています。さらに、共創館の屋外グラウンド整備によって、地域の健康づくりの人材を養成する健康スポーツ福祉専攻の教育活動がさらに充実し、学生の課外活動でも大いに活用されることが期待されます。沖縄大学の理念「地域共創・未来共創の大学へ」歩みを進めていくために、コミュニティ・キャンパスとして沖縄大学アネックス共創館の整備が進んでいます。



ラーニング・コモンズ OPEN!



4月10日に、ラーニング・コモンズが2号館2階にオープンしました。

ラーニング・コモンズとは、「学習のための共有空間」という意味で、個別学習はもちろんグループ学習やワークショップなど様々に利用できます。また、これまで図書館内にあった「ライティングセンター」を新たに設置し、学生のレポート相談の窓口を開設しています。

沖縄大学創立60周年記念事業資金のための募金活動状況

沖縄大学は2018年6月10日に創立60周年の節目を迎えます。その記念事業として、学生食堂の新設、アクティブ・ラーニングの為の教室やグラウンドの整備に取り組んでおり、高等教育を担う学校法人として、後援会、同窓生、一般の皆様、並びに企業、法人様より、随時募金の受付を行っております（5千万円を目標に寄附金を募ります）。募金活動は2019年3月までを予定しております。今般広報誌の刊行に際し、2017年4月3日以降（2017年8月10日現在）に受け入れた募金についてご報告し、改めて御礼を申し上げます。なお、引き続き寄附金を募集いたしておりますので、特段のご芳情を賜りますよう、重ねてお願い申し上げる次第です。

2017年4月3日から2017年8月10日までのご寄附企業名　及び　ご芳名（順不同）　金額単位：円

■企業・法人

ご芳名	金額
㈱金秀本社　代表取締役会長 呉屋　守將	1,000,000
㈱琉仁カスタマーサービス　代表取締役 城　英俊	302,400
㈱おきぎんリース　代表取締役社長 西平　典明	100,000
㈲仲松商事　代表取締役 仲松　由清	30,000
沖縄パナソニック特機㈱　代表取締役 木村　隆夫	30,000

■後援会（在学生の保護者等）

ご芳名	金額
照屋　正	10,000
吉田　茂	50,000
名嘉真美和子	5,000

■同窓会関係者

ご芳名	金額
齋藤　登	10,000
島袋　英光	100,000
具志堅キヨ子	10,000

■一般篤志家

ご芳名	金額
外間なるみ	100,000
佐喜眞　望	10,000
壱岐　一郎	50,000
小畠　宏	30,000
玉城　増美	3,000

■本学教職員

ご芳名	金額
長濱　正弘	100,000
仲地　博	1,000,000
佐喜真　實	300,000
久貝　興徳	20,000
古座　文彦	5,000

小野　啓子	30,000	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ・ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰ	5,000	森田　泰弘	25,000
若林　千代	25,000	島村　聡	5,000	山城　真子	5,000
吉本　篤人	10,000	喜屋武政勝	10,000	國吉　正人	5,000
我部　聖	25,000	石原　端子	5,000	金城　敬	15,000
盛口　満	25,000	吉井美知子	10,000	安里　賢吾	5,000
山代　寛	50,000	池間　生子	5,000	名幸　妙子	10,000
豊川　明佳	5,000	天久　大輔	10,000	神谷　和美	5,000
島袋　隆志	10,000	島袋　より子	10,000	池村　貴志	5,000
糸数　哲	10,000	田代　真紀	5,000	廣中　夕奈	5,000
矢島　秀和	5,000	大城　貴之	3,000	名嘉　夏芽	5,000
木村　英紀	10,000	松木　健二	10,000	新垣真一郎	10,000
西　泉	20,000	糸数　晃	15,000	兼島　徹	5,000
ﾃｨﾘｰﾌﾞ・ﾁｬﾝﾄﾞﾗﾗｰﾙ	25,000	金城　直樹	15,000	與那原亜由美	10,000
上地　武昭	20,000	大城　達司	10,000	田丸　尚絵	5,000
伊藤　丈志	5,000	後藤　哲志	10,000	牧志　麻衣子	5,000
王　志英	5,000	玉城　紀子	5,000	上江洲　光司	5,000
須藤　義人	5,000	備瀬　知貴	5,000	金城　慎介	5,000
宮城　公子	10,000	亀谷　千恵子	5,000	島仲　小百合	5,000
名城　健二	5,000	棚原　大介	5,000	志良堂かなさ	5,000
髙良　沙哉	5,000	比嘉　良彰	10,000	浜比嘉大祐	10,000
嘉数　健悟	10,000	楢原　海里	5,000	金城　睦希	3,000

総額 4,008,400 円　総額については、匿名希望者のご寄附も含めた募金額です。

本件掲載分については、広報誌掲載へのご了解が確認できた企業名・ご芳名を報告させていただいております。この度のご寄附に関し、重ねて感謝申し上げますとともに、頂戴いたしました募金につきましては、この趣旨に沿うよう有効に活用させていただく所存でございます。

2017年度

沖縄大学入学式

4月2日(日)、本学体育館で2017年度入学式が行われました。保護者や教職員、同窓会そして後援会など関係者らが見守る中、法経学部251名、人文学部284名、大学院現代沖縄研究科6名、計541名の新入生は、これから始まる沖縄大学での学生・院生生活への期待を胸に、式に臨みました。

仲地学長は式辞で「全国に800に近い大学の中で、この特色ある沖縄大学に集うことができたことを、全教職員、関係者全てが大変嬉しく思っています」と喜びを表し、沖縄大学の理念を語りました。

法経学科に入学した石川眞子さん(石川高校出身)は、新入生を代表して「今日の世界や日本、そして沖縄には、極端な排外主義の台頭、東日本大震災からの復興、子どもの貧困、基地問題などの、容易には解決に至らない問題が山積しています。そのような状況の中にある私たちは、大学という恵まれた環境のもとで専門的な知識を身につけ、より深く追求することによって、それぞれの問題の核心をしっかりと捉え、解決策を見つけ出し、社会に役立てるような人材になることを目標に、日々精進していきたいと思います」と抱負を述べました。

閉会の挨拶では、島袋隆志学生部長が「うちなーわかむん、ひやみかち立てば、なさんくとぅねらん、なしてぃ見しら」と新入生にエールを送りました。

学長式辞(抄録)

沖縄大学学長　仲地　博

[地域共創の大学]

皆さんの中には、沖縄大学の教育研究を指導する理念を調べた方も少なくないと思います。沖縄大学は、「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を建学の理念として自覚し、今「地域共創・未来共創の大学へ」を標榜しております。「きょうそう」は、競い合う競争ではなく、共に創る共創です。地域の未来を共に創りあげることを目標に教育・研究そして地域と連携した活動を行う大学です。

[地方創生]

ところで、皆さんは、地方消滅という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか。三年ほど前に、政策提言の組織である日本創成会議が打ち出した「地方消滅」という議論が大きな反響を呼びました。日本はすでに人口が減少していく社会ですが、二〇四〇年には全国の市町村の半分が消滅する可能性があるというのです。人口減少で地域が崩壊し、財政難で自治体が運営できなくなるというのです。

この報告は、衝撃的でした。それに対して政府が打ち出した政策が地方創生です。地方創生の「創生」は、創り生まれると書きます。平たくいえば創り出すことです。地方創生政策の目標は、東京一極集中を解消し、地方の人口減少に歯止めをかけ、地方の活性化をはかることです。その中で、地方に立地する大学には大きな期待が寄せられています。文部科学省は「地方大学等創生5か年戦略」を立て、地域社会と連携した課題解決に取り組む大学を評価支援し、また私立大学において地域発展に貢献する取り組みを強力に支援しています。

[地域と共にある沖縄大学]

そのような国の政策の中で、昨年度、沖縄大学は、文部科学省が募集する「私立大学研究ブランディング事業」を行う大学として採択されました。地域の発展に役立つ研究を大学全体として行う大学として評価されたのです。全国に一千に近い私立大学・短大の中で、採択されたのはわずかに一七大学です。一昨年は、やはり文部科学省の私立大学総合改革支援事業で、沖縄大学は、地域発展に組織的に取り組む大学として採択されました。両事業とも、沖縄では、沖縄大学だけです。地域と共にある沖縄大学の実績が認められたのです。沖縄大学は、地方創生の時代に、時代の最先端を行く大学と言ってよいでしょう。沖縄大学は小さくともキラリ光る大学です。皆さんが学ぼうとする沖縄大学とはこのような大学なのです。

[沖縄大学憲章]

沖縄大学は、大学の教育研究の理念を「大学憲章」として定めておりますが、こう述べています。「沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を教育し大学の活性化をはかります。また県都那覇市にある大学として、『人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点』となることを目指します」。「学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会からかち得ていきます」。まさに、地域創生政策の中の大学の役割が、沖縄大学憲章の中には謳われているのです。



2017年度 冠奨学金証書授与式

冠奨学金は、県内の企業・団体及び個人からの寄附金で運営されている奨学金制度です。

今年度の冠奨学金授与式が８月９日(水)に同窓会館で開催され、33名の学生に奨学金が授与されました。奨学生を代表し、国際コミュニケーション学科４年次の仲里拓真さんから、ご寄附をいただいた皆様への感謝の言葉と今後の抱負が述べられました。また、寄附者代表として、株式会社沖縄銀行の瀧石様より温かい激励のお言葉をいただき、奨学生の皆さんへエールが送られました。



2017年度 沖縄大学後援会総会

沖縄大学後援会は、学生の教育・研修活動に対する補助や奨学金の給付等により、学習や課外活動の支援を行っています。

沖縄大学後援会総会が、６月３日(土)本館１０１教室で開催されました。総会では、２０１６年度の事業報告、決算報告及び監査報告、２０１７年度の事業報告(案)、予算(案)、役員(案)が審議され、全て承認いただきました。総会資料については、本学ＨＰの後援会ページでご覧いただけます。

昨年度は、奨学金の給付の他、学生のボランティア活動や運動部への補助、海外スタディーツアーへの派遣補助等、学生の様々な活動に対する支援を幅広く展開いたしました。今年度は、２０１８年に迎える沖縄大学創立60周年の記念事業の１つである学生食堂の新設に対し、補助事業を行います。今後も学生の修学環境や学生生活をより充実したものにするため、引き続きサポートを行ってまいります。

８月31日から県内５地区で行われる保護者懇談会には会長・副会長が参加し、会員の皆様と交流を深める予定です。

今年度も引き続き後援会活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

【２０１７年度役員】
会　長　嘉数昇明(元沖縄県副知事)
副会長　照屋正(りゅうぎん総合研究所 常務取締役)
副会長　新城孝幸(沖縄銀行 融資統括部部長)

2017年度 沖縄大学同窓会総会

沖縄大学同窓会定期総会が６月３日(土)本館１０２教室で開催されました。

総会では、第１号議案(２０１６年度事業活動報告、収支決算報告、監査報告)、第２号議案(２０１７年度事業計画(案)、収支予算(案))、第３号議案(２０１７・２０１８年度役員・評議員(案))について審議され、全会一致で承認されました。

２０１７年度の同窓会役員は、会長に友利浩氏が就任され、４年間ご尽力された金城正弘氏からバトンを引き継ぎました。

２０１７年度の会長・副会長は次のメンバーです。

【会　長】友利浩(新任)
【副会長】金城正美、玉城舞瑳子、仲村昌和、謝花美佐子、稲嶺諭(新任)

事業計画(案)では、沖縄大学同窓会経済ネットワーク（仮称）の設立準備や、２０１８年に迎える沖縄大学創立60周年に対する寄付活動への協力等が確認されました。

同窓会では、今後も沖縄大学と沖縄大学同窓会の発展のために、様々なサポートを行っていきます。

2017年度 沖縄大学後援会・同窓会合同懇親会

６月３日（土）、沖縄大学後援会と沖縄大学同窓会の合同懇親会が本館同窓会館で行われ、約１６０名の関係者が出席されました。



保護者懇談会の開催について



本学は、きめ細やかな学生支援を行うため、各学生の学業や学生生活等の状況について、教職員と保護者との個別面談会を開催しています。

今年度の開催日程は次の通りです。是非ご参加ください。

日程及び会場一覧

- **久米島地区／８月31日(木)**
  ホテル久米アイランド
- **宮古地区／９月６日(水)**
  ホテルアトールエメラルド宮古島
- **八重山地区／９月７日(木)**
  アートホテル石垣島
- **北部地区／９月12日(火)**
  ホテルゆがふいんおきなわ
- **中南部地区／９月16日(土)**
  沖縄大学

お問い合わせ先：学生支援課
☎０９８－８３２－７１８２



2016（平成28）年度　決算について

資金収支計算書

（単位：千円）

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
人件費支出	1,095,633	学生生徒等納付金収入	1,564,304
教育研究経費支出	482,129	手数料収入	23,425
管理経費支出	72,552	寄付金収入	34,003
借入金等利息支出	13,286	補助金収入	340,764
借入金等返済支出	52,850	資産売却収入	319
施設関係支出	404,685	付随事業・収益事業収入	3,382
設備関係支出	118,536	受取利息・配当金収入	6,557
資産運用支出	31,280	雑収入	20,508
その他の支出	43,822	前受金収入	782,535
資金支出調整勘定	△113,440	その他の収入	60,839
次年度繰越支払資金	2,633,965	資金収入調整勘定	△777,757
		前年度繰越支払資金	2,776,419
支出の部　合計	4,835,301	収入の部　合計	4,835,301

資金収支計算書は、当該年度における学校法人の諸活動に対応する資金の使途（資金支出）とこれに対する資金の調達（資金収入）のすべてを明らかにしたものです。また、年度末における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）がいくらあるかも表します。

資金収入には、授業料等の学費や、入学検定料、寄付金、補助金等の収入や、前受金などのすべての収入を計上します。

資金支出には、教職員に支払う給与、教育や研究のための経費、消耗品や水道光熱費等の諸経費、土地、建物、図書、機器備品の購入費等のすべての支出を計上します。

今期の収支とすべきもので今期で資金の動きがないものは、調整勘定としてマイナス計上とします。たとえば、前期で納めた今期の学費は前期末前受金として、資金収入調整勘定へ計上されます。また、今期の活動に対する支出で、未だ支払われていないものは期末未払金として、資金支出調整勘定にマイナス計上されます。

事業活動収支計算書

（単位：千円）

		科目	金額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,564,304
		手数料	23,425
		寄付金	34,003
		経常費等補助金	328,581
		付随事業収入	3,382
		雑収入	20,447
		教育活動収入計	1,974,144
	事業活動支出の部	人件費	1,105,518
		教育研究経費	631,271
		管理経費	74,933
		徴収不能額等	242
		教育活動支出計	1,811,966
	教育活動収支差額		162,178
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	6,557
		教育活動外収入計	6,557
	事業活動支出の部	借入金等利息	13,286
		教育活動外支出計	13,286
	教育活動外収支差額		△ 6,729
経常収支差額			155,448

		科目	金額
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	25
		その他の特別収入	46,624
		特別収入計	46,650
	事業活動支出の部	資産処分差額	12,898
		その他の特別支出	62
		特別支出計	12,960
	特別収支差額		33,689
〔予備費〕			
基本金組入前当年度収支差額			189,138
基本金組入額合計			△ 476,030
当年度収支差額			△ 286,892
前年度繰越収支差額			△ 242,952
基本金取崩額			5,921
翌年度繰越収支差額			△ 523,924

（参考）

事業活動収入計	2,027,352
事業活動支出計	1,838,214

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容とその均衡を明らかにする目的で作成します。収支を経常的な収支、臨時的な収支（特別収支）に分け、経常的な収支は更に、教育活動収支と教育活動外収支に分けて把握することができるようにしています。資金収支計算書にはなく、事業活動収支計算書に表れる科目としては、減価償却額や退職給与引当金などがあります。

教育活動収支の「教育」には、研究を含むとされていますので、教育活動収支は学校法人の本業である教育と研究による収支を表します。

教育活動外収支は財務活動等による収支を表します。

特別収支のその他特別収入には施設設備補助金（1千2百万円）、現物寄付（1百万円）、過年度修正収入3千2百万円等が計上されています。過年度修正収入は退職給与引当金についての修正を行ったものです。

基本金組入前の当年度収支差額は1億8千9百万円、基本金を控除した収支差額は土地、建物の購入額が大きかったことから△2億8千6百万円となりました。

貸借対照表

（単位：千円）

資産の部 科目	金額	負債・基本金・消費収支差額の部 科目	金額
固定資産	5,457,568	固定負債	1,315,156
（1）有形固定資産	4,856,221	流動負債	912,630
（2）特定資産	409,173	負債の部合計	2,227,787
（3）その他の固定資産	192,174		
流動資産	2,655,558	基本金	6,409,264
		第1号基本金	6,077,264
		第2号基本金	200,000
		第4号基本金	132,000
		繰越収支差額	
		翌年度繰越収支差額	△ 523,924
		純資産の部合計	5,885,340
合計	8,113,127	合計	8,113,127

貸借対照表は、年度末における法人の財政状況を明らかにするために、法人の保有する資産、負債、基本金及び翌年度繰越消費収支差額を一覧表示したものです。

2016年度末の総資産は81億1千万円（以下、百万円以下切捨て）で、前年度末に比べて2億円増加しています。一方、負債総額は22億2千万円で、前年度より1千万円増加しています。「負債」とは言っても、その大半は前受金（次年度授業料の前払金7億8千万円）と退職給与引当金4億5千万円など返済の必要のない負債です。一般的な意味での負債は、本館ビル建設及び長田第一駐車場購入時の私学事業団からの借入金の残、8億4百万円ですが、利子を含め毎年着実に返済（2016年度は6千万円）しています。

基本金について

学校法人は、設置する学校の教育研究やその他の諸活動を行うために、校地、校舎、機器備品、図書等の資産を保有しています。そして、これら保有資産のうち、教育研究に必要な資産は、教育水準の維持向上と円滑な法人運営を図る観点から、継続的に保持しなければならないことになっています。

このように、必要な資産の維持状況を表したものが基本金です。

2017（平成29）年度　予算について

資金収支予算書

（単位：千円）

収入の部 科目	予算	前年度予算	増・減
学生生徒等納付金収入	1,560,000	1,579,773	△ 19,773
手数料収入	22,094	22,262	△ 168
寄付金収入	27,260	25,710	1,550
補助金収入	298,734	297,810	924
資産売却収入	117	0	117
付随事業・収益事業収入	1,984	3,157	△ 1,173
受取利息・配当金収入	4,256	5,360	△ 1,104
雑収入	52,945	13,054	39,891
前受金収入	769,272	802,483	△ 33,211
その他の収入	109,771	154,213	△ 44,442
資金収入調整勘定	△ 845,222	△ 823,656	△ 21,566
前年度繰越支払資金	2,486,900	2,821,400	△ 334,500
収入の部合計	4,488,111	4,901,566	△ 413,455

学生生徒等納付金とは、学生のみなさんが納める授業料、施設費、実習料などです。

手数料は、入試の受験料、各種証明書の発行手数料や大学入試センター試験手数料などが含まれます。

補助金収入の殆どは国からの補助金です。

付随事業・収益事業収入は、ほぼ教員免許状更新講習料収入（1,764千円）によるものです。

前受金収入とは、入学金など本来、翌会計年度に属する収入を当該年度において収納したものをいいます。

（単位：千円）

支出の部 科目	予算	前年度予算	増・減
人件費支出	1,194,774	1,141,832	52,942
教育研究経費支出	520,288	518,728	1,560
管理経費支出	86,175	81,454	4,721
借入金等利息支出	12,441	13,287	△ 846
借入金等返済支出	52,850	52,850	0
施設関係支出	254,000	475,000	△ 221,000
設備関係支出	50,385	180,225	△ 129,840
資産運用支出	31,000	31,000	0
その他の支出	54,205	37,196	17,009
予備費	10,000	10,000	0
資金支出調整勘定	△ 19,517	△ 119,209	99,692
翌年度繰越支払資金	2,241,510	2,479,203	△ 237,693
支出の部合計	4,488,111	4,901,566	△ 413,455

人件費は、専任教職員や非常勤講師、非常勤職員の給与、各種手当、期末手当などです。

教育研究費とは、研究助成費や学生活動補助金、奨学費、光熱水費や消耗品まで、教育・研究活動に必要なすべての経費が含まれています。

大学院



沖縄大学大学院・現代沖縄研究科には、「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」の2専攻があります。

①昼夜・土曜開講制／講義科目や演習は、原則として平日の6～7校時と土曜日の3～6校時に開講されます。

②長期履修制度／2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について、長期履修生（3年間）としての入学を認めます。

③専修免許取得／社会（中学）、公民・地理歴史（高校）の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許状が取得できます。

▶11ページ：2017年度予算の続き

事業活動収支予算書

（単位：千円）

		科目	本年度予算	前年度予算	増・減	
経常的な収支バランス	教育活動収支	事業活動収入の部 学生生徒等納付金	1,560,000	1,579,773	△ 19,773	教育事業での収支
		手数料	22,094	22,262	△ 168	
		寄付金	27,260	25,710	1,550	
		経常費等補助金	291,642	290,718	924	
		付随事業収入	1,984	3,157	△ 1,173	
		雑収入	52,945	13,054	39,891	
		教育活動収入計	1,955,925	1,934,674	21,251	
		事業活動支出の部 人件費	1,142,604	1,151,244	△ 8,640	
		教育研究経費	701,291	678,080	23,211	
		管理経費	90,395	83,726	6,669	
		教育活動支出計	1,934,290	1,913,050	21,240	
		教育活動収支差額	21,635	21,624	11	
	教育活動外収支	事業活動収入の部 受取利息・配当金	4,256	5,360	△ 1,104	教育事業外の収支
		教育活動外収入計	4,256	5,360	△ 1,104	
		事業活動支出の部 借入金等利息	12,441	13,287	△ 846	
		教育活動外支出計	12,441	13,287	△ 846	
		教育活動外収支差額	△ 8,185	△ 7,927	△ 258	
	経常収支差額		13,450	13,697	△ 247	
臨時的な収支バランス	特別収支	事業活動収入の部 資産売却収入	117	0	117	
		その他の特別収入	7,092	7,092	0	
		特別収入計	7,209	7,092	117	
		特別収支差額	7,092	7,092	117	
	〔予備費〕		10,000	10,000	0	
	基本金組入前当年度収支差額		10,659	10,789	△ 130	
	基本金組入額合計		△ 236,433	△ 485,085	248,652	
	当年度収支差額		△ 225,774	△ 474,296	248,522	
	前年度繰越収支差額		△ 717,249	△ 172,063	545,186	
	翌年度繰越収支差額		△ 943,023	△ 646,359	296,664	
（参考）						
	事業活動収入計		1,967,390	1,947,126	20,264	
	事業活動支出計		1,956,731	1,936,337	20,394	

毎年度の収支バランスを見ることができる額です。

土地や建物、備品、図書等、法人を維持するために必要な資産を継続的に保持するための組入額です。

2017年度は、大学の本業である教育活動の収支差額が＋2千1百万円、教育活動外の収支差額が－8百万円、この合計である経常収支差額が＋1千3百万円。つまり、本業による教育活動で得た収入で教育活動外で出た支出を補い、1千3百万の収入超過（黒字）となるということです。

基本金組入前の当年度収支差額は+1千万円の黒字ですが、2億3千6百万円の基本金組入額により、当年度収支差額は2億2千5百万円の赤字となっています。

2018年度 沖縄大学大学院 入試日程

入試日程		願書受付	入試日
AO入試		2017年 8月7日（月）～ 2018年 2月13日（火）	第1次面談日は志願者と調整
一般入試	10月試験	2017年 9月25日（月）～ 10月2日（月）	2017年 10月7日（土）
一般入試	2月試験	2018年 1月29日（月）～ 2月6日（火）	2018年 2月17日（土）

2018年度 沖縄大学 入試日程

		願書受付期間	入試日
AO入試	8月	2017年 8月1日（火）～ 8月9日（水）	2017年 8月18日（金）～ 8月20日（日）
AO入試	10月	2017年 9月25日（月）～ 10月5日（木）	2017年 10月14日（土）～ 10月15日（日）
AO入試	12月	2017年 11月24日（金）～ 12月5日（火）	2017年 12月16日（土）～ 12月17日（日）
推薦入試		2017年 11月1日（水）～ 11月9日（木）	2017年 11月18日（土）～ 11月19日（日）
前期	一般入試	2018年 1月5日（金）～ 1月23日（火）	2018年 2月6日（火）～ 2月7日（水）
前期	センター試験利用入試		2018年 1月13日（土）～ 1月14日（日）
中期	一般入試	2018年 2月5日（月）～ 2月21日（水）	2018年 3月2日（金）
中期	センター試験利用入試		2018年 1月13日（土）～ 1月14日（日）
後期	一般入試	2018年 2月27日（火）～ 3月6日（火）	2018年 3月13日（火）
後期	センター試験利用入試		2018年 1月13日（土）～ 1月14日（日）

募集定員

入試種別 学科・専攻	AO入試 8月	AO入試 10月	推薦入試	専門・総合学科特別	AO入試 12月	前期 一般	前期 センター利用	中期 一般	中期 センター利用	後期 一般	後期 センター利用	合計
法　経	40	22	65	10	18	24	28	10	7	3	3	230
国　際	15	10	19	3	5	10	7	5	2	2	2	80
福祉文化（社会福祉専攻）	20	12	30	4		5	3	5	2	2	2	85
福祉文化（健康スポーツ福祉専攻）	10		20			5	3	5	2			45
こども文化			20			14	10	4	2			50
合　計	85	44	154	17	23	58	51	29	15	7	7	490

学部

沖縄県内の大学で初めてWeb出願を導入しました。

紙の願書を取り寄せる必要がなくなり、ネットから出願登録が行えます。



イベント情報

第3回オープンキャンパス

10月28日（土）午後1時

送迎バス有、県外・離島参加者は受験料免除特典があります。

2018年度 学生募集

お問い合わせ先　入試広報室（電話098-832-3270）